

## 横河電機の雑誌広告 大正7年～大正15年

『電気年鑑』大正7～15年 電気之友社 所載

国立国会図書館 近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp/>)より

2009年6月

関口 一雄

### 1 はじめに

国立国会図書館 近代デジタルライブラリーより横河電機の創業直後の広告・会社概要を見出した。電気之友社発行 『電気年鑑』大正7年(1918)から大正15年の各年度、所載のものである。製品発表に翌年であり、最も古い部類の広告かと思われる。

### 2 広告図版と会社概要

記載は左に広告図版、右に会社概要。概要は大正10年までのものは社名、代表者名、所在地、電話番号、業種の順序となっている。尚、字体の表記は可能なかぎり当時のままに表した。ただし、本来縦書きのものを横書きに変更してある。

### 3 各年度の広告と会社概要



### 大正7年

横河電機製作所

横河民輔

東京府豊多摩郡下渋谷七〇〇 (注1)

芝 三三八 (注2)

電気機械器具製造販賣



製品目次

携帶用電氣計器  
配電盤用電氣計器  
標準型電氣計器  
其他電氣計器類一般

東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇

**横河電機製作所**

電話芝三三八一番

(11)

## 大正8年

横河電機製作所  
 横河民輔 横川一郎 (注3) 青木 晋  
 東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇  
 芝 三三八一  
 電氣計器類一般



製品目次

携帶用電氣計器  
配電盤用電氣計器  
標準型電氣計器  
其他電氣計器類一般

東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇

**横河電機製作所**

電話芝三三八一番

(10)

## 大正9年

横河電機製作所  
 横河民輔  
 東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇  
 芝 三三八一  
 電氣計器類一式

**営業課目**

■	配電盤	及	配電盤	用器	器具
□	積算	力	計	計	計
◇	各種	温度	度	計	計
□	ブツツ	ハ	ボ	ラ	ン
■	物理測	定	用	器具	及

**株式會社 横河電機製作所**  
東京府澁谷町字下澁谷七〇〇  
電話芝長三三八一・三八〇一

( 3 )

## 大正 10 年

株式會社 横河電機製作所 (注 4)  
横川一郎 (注 3)  
東京府豊多摩郡渋谷町大字渋谷七〇〇  
芝長三三八一・三八〇一 (注 5)  
電気計器及配電盤、物理学用測定器

**Y. E. W.  
APPARATUS FOR  
LINE PROTECTION**

**誘導型繼電器**  
(TYPE I INDUCTION RELAY)

最近電力會社の資本合同は必然的に送電並に配電系統の連絡を實行する點機と本社内 斯かる複雑せる線路にありて故障を換出速断し被害を一掃にせしむる必要は倍も大都市に於ける消防設備の整備と同様であります。

社會奉仕に熱心なる電燈電力會社は新設の配電盤に動作安全なる誘導型繼電器の使用を斷行せらるゝは勿論既設の配電盤も舊式なる繼電器は漸次置き換へて停電の事故を減じ營業の成績を擧げらるゝ機御望め致します。

**株式會社 横河電機製作所**  
東京府澁谷町字下澁谷七〇〇  
芝長三三八二・三八〇一

( 1 )

## 大正 11 年 (注 6)

株式會社 横河電機製作所  
東京府豊多摩郡渋谷町大字下渋谷七〇〇  
電 話 長芝三三八一・三八〇一  
總 資本金 五十萬圓  
払込資本金 二十萬圓  
開業年月日 大正四年十月  
主要製作品 電気計器、配電盤、積算電力計 其他精密電気器具  
工場坪數 六〇〇坪 (注 7)、工場所在地  
社員 總數 二十人、職工 百五十人  
專 務 横河一郎 取締役 青木 晋  
取締役 瀬戸文吾 監査役 山北與三郎  
監査役 東郷 安 技師長 青木 晋

**Y. E. W.**  
**單相積算電力計**  
Y 20 型

逓信省型式承認第七拾號



東信市電氣局  
南滿洲鐵道株式會社  
京浜電氣株式會社  
東邦電力株式會社

此單相積算電力計は其の製造費を減じ且つ耐久的なる構造を案出して帝國政府の特許を得今や之を實際に應用して逓信省の型式承認を経たり。依て弊所は之を市場に出して各位の御試用と御教示を乞ひ並に製造設備を完成して良品廉價の要諦たる大量生産に成功せん事を期するものなり。

**株式會社 横河電機製作所**  
東京府 澁谷町

(註)

## 大正 12 年

株式會社 横河電機製作所  
東京府澁谷町下澁谷七〇〇  
電 話 芝長三三八一・三八〇一  
總資本金 五十萬圓  
払込資本金 二十萬圓、最近配当率 九分  
開業年月日 大正四、一〇  
主要製作並販売品 電氣計器 配電盤  
配電盤用器具 積算電力計 物理学測定器及実験装置  
工 場 東京府澁谷町下澁谷七〇〇  
工場建物坪數 九〇〇坪 (注 8)  
社員、職工數 社員二〇名、職工二〇〇名  
專 務 横河一郎 取締役 青木 晋  
取締役 瀬戸文吾 監査役 山北與三郎  
監査役 東郷 安 技師長 青木 晋

**Y. E. W.**  
**單相積算電力計**  
T 型

逓信省型式承認第八拾九號



東京市電氣局  
南滿洲鐵道株式會社  
京浜電氣株式會社  
東邦電力株式會社

此單相積算電力計は其の製造費を減じ且つ耐久的なる構造を案出して帝國政府の特許を得今や之を實際に應用して逓信省の型式承認を経たり。依て弊所は之を市場に出して各位の御試用と御教示を乞ひ並に製造設備を完成して良品廉價の要諦たる大量生産に成功せん事を期するものなり。

**株式會社 横河電機製作所**  
東京府 澁谷町

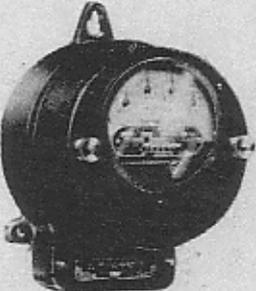
(註)

## 大正 13 年

株式會社 横河電機製作所  
東京府澁谷町下澁谷七〇〇  
電 話 芝長三三八一・三八〇一  
總資本金 五十萬圓  
払込資本金 二十七萬五千圓  
最近配当率 九分  
開業年月日 大正四、一〇  
主要製作並販売品 [ 電氣計器 配電盤  
配電盤用器具 積算電力計 物理学測定器及実験装置 ]  
工 場 東京府澁谷町下澁谷七〇〇  
工場建物坪數 七〇〇坪  
社員、職工數 社員二〇名、職工二一〇名  
專 務 横河一郎 取締役 青木 晋  
取締役 瀬戸文吾 監査役 東郷 安  
監査役 山北與三郎 技師長 青木 晋

大正十四年度年報

**Y. E. W.**  
**單相積算電力計**  
T 型



此單相積算電力計は其の製造費を減じ且つ耐久  
 的なる構造を案出して帝國政府の特許を得今や之  
 を實際に應用して逓信省の型式承認を経たり。依  
 て弊所は之を市場に出して各位の御試用と御教示  
 を乞ひ並に製造設備を完成して良品廉價の要諦た  
 る大量生産に成功せん事を期するものなり。

**株式 横河電機製作所**  
 東京府 渋谷町

逓信省型式承認第八拾九號

主なる  
 納入先  
 東京市電氣局  
 南滿洲鐵道株式会社  
 京濱電氣株式会社  
 東邦電力株式会社

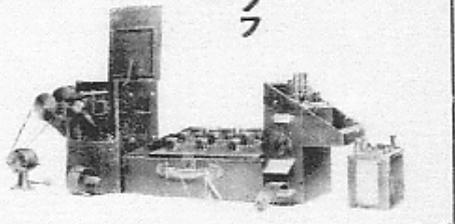
## 大正 14 年

株式会社 横河電機製作所  
 東京府渋谷町下渋谷七〇〇  
 電 話 青山五八九三・三三六〇(注 9)  
 総資本金 五十萬圓  
 払込資本金 三十萬圓  
 最近配当率 八分五厘  
 開業年月日 大正四年十月  
 主要製作並販売品〔電氣計器、配電  
 盤配電盤用器具 積算電力計 物理学測  
 定器及実験装置〕  
 工 場 東京府渋谷町下渋谷七〇〇  
 工場建物坪數 七〇〇坪  
 社員、職工數 社員二〇名、職工二五〇名  
 専 務 横河一郎 取締役 青木 晋  
 取締役 瀬戸文吾 監査役 東郷 安  
 監査役 山北與三郎 技師長 青木 晋

大正十五年年度年報

**YEW**

**國 産**  
**オッシロ**  
**グラフ**



**株式 横河電機製作所**  
 東京府 渋谷町

本所の採用に際しては、現地に於て、無  
 誤、迅速、正確、廉價、且、修理  
 容易なる等の諸條件を具備する  
 べきである。

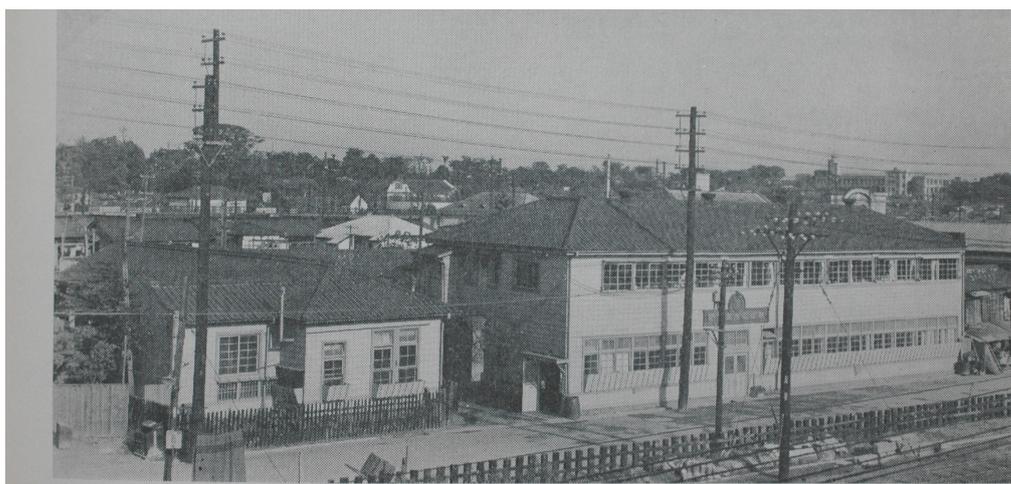
本所は、逓信省型式承認第八拾九號  
 を得て、御試用と御教示を乞ひ、  
 並に製造設備を完成して良品廉價  
 の要諦たる大量生産に成功せん事を  
 期するものなり。

## 大正 15 年(注 10)

株式会社 横河電機製作所  
 東京府渋谷町下渋谷七〇〇  
 電 話 青山五八九三・三三六〇  
 総資本金 五十萬圓  
 払込資本金 三十萬圓  
 最近配当率 八分五厘  
 開業年月日 大正四年十月  
 主要製作並販売品〔電氣計器、配電  
 盤配電盤用器具 積算電力計 物理学測  
 定器及実験装置〕  
 工 場 東京府渋谷町下渋谷七〇〇  
 工場建物坪數 七〇〇坪  
 社員、職工數 社員二〇名、職工二五〇名  
 専 務 横河一郎 取締役 青木 晋  
 取締役 瀬戸文吾 監査役 東郷 安

#### 4 大正7年から10年までの広告図版

下の写真（写真1）は『計測器ひとすじに 横河電機の50年』より23頁 『渋谷工場全景』である。大正7年から10年までの広告はこれをベースにしたものと考えられる。広告原稿作成時に手前の電柱や煩雑な背景をカットしたのであろう。この時代、図版に工場等を使用した例は他社にも見受けられる。独立した社屋を所有していることはそれなりの宣伝効果があったのであろう。なおこの時代から文案は一貫して左横書きになっている。右横書きも多かった時代、現在の私たちにも全く違和感がない。



渋谷工場全景

写真1

#### 5 大正11年から15年までの広告図版

大正11年からは、図版は『渋谷工場全景』から製品、しかも写真となっている。そしてこの11年にはその後永い年月シンボルであった **YEW** の原型というべきか **Y. E. W.** の出現を見ることができる。製品写真は誘導型継電器、12年以降14年までは単相積算電力計となっている。12年の製品（Y-20）は創業当初からの懸案であったものの量産化で問題があった。しかも第一次世界大戦後の復興から立ち上がったドイツ、シーメンスの製品がどんどん流入してきた。広告のなかで『・・・良品廉価の要諦たる大量生産に成功せん事を期するものなり。』とは裏腹にシーメンスの製品が一台6円前後に対し20円以上のコストになるY-20は残念なことにこれにたちうちは難しかったという。この年代12年には9月に関東大地震に見舞われた。幸い被害は軽微なものであった。13・14年はT1形積算電力計を掲載している。さきのY-20を改良したもので19円、それでも輸入品とは競争にならず、また芝浦製作所、富士電機からも量産品が出るようになったため、生産を中止した。15年には電磁オシログラフが登場した。この価格は研究用2,000円で他の計器に比較すると相当高価だったが、輸入品の半額ぐらいだった。これによって横河は大きな声価を勝ちえ、その後ブラウン管オシログラフが出来るまで長くドル箱となった。

## 6 創業の頃 『計測器ひとすじに 横河電機の50年』による。

大正4年9月1日	電気計器研究所（東京・渋谷）に創設。大正2年勃発の第一次世界大戦の影響で電気計器の輸入途絶。
大正5年3月ころ	横河電機製作所と改称。
大正6年6月	電流計、電圧計、電力計などの試作に成功。ついでこれ等の販売を開始した。また業界初とみられるカタログを作成。
大正7年3月	木造2階建の本建築工場の建設。逓信省の指定工場となる。 電気博覧会に出品。11月、第一次世界大戦終結。
大正8年4月	電気測定器の研究製作を開始。海軍省の指定工場となる。12月、安川電機、北辰電機設立。
大正9年12月	資本金50万円の株式会社を創立。3月、大戦後の反動恐慌。株式大暴落。
大正10年4月	初めて測定器発売。
大正11年11月	工場を拡大。
大正12年	携帯用電磁オシログラフの試作に成功。9月、関東大震災。
大正13年	携帯用電磁オシログラフの製品化。4月、東京電燈（現在の東京電力）屋内灯3灯以上は従量制となる。積算電力計の需要が増加。
大正14年3月	高周波測定器研究製造を開始。ラジオ放送開始。
大正15年5月	平和博覧会へ電磁オシログラフ出品、名誉賞受賞。 9月、創立10周年。最初の自動式電話京橋に開設。12月、大正天皇崩御。昭和と改元。
昭和2年3月	<b>YEW</b> の商標出願、8月登録される。4月、陸軍省の指定工場となる。

## 7 電気年鑑について

この書物、当初のものどこにも発行年月日、発行者、発行所等記載すべき奥付のページが見当たらない。大正12年から記載されるようになっている。したがって大正7～11年までは発行日が定かでない。ちなみに大正12年のものは7月30日発行。大正13年8月15日発行。大正14年7月20日発行となっている。また大正13年度の年鑑の凡例に『・・・主要事項は電気之友誌上より精選して抜録』\*電気之友は電気之友社発行の月刊誌。『・・・電気事業及商工業一覧は大正13年3月末日迄の回答に依れるもの』となっている。

この年鑑、大正15年のものを見ると次のように大部のものである。参考までに目次を次ページに記載した。

## 大正 15 年電気年鑑目次 大正 14 年中の本邦電気界

電燈・電力・電気鉄道。電気化学工業。電気商工業。電気通信。学事及会合。各学校  
電気科卒業生一覧（大正 14 年中）。法令。人事。書類出版物。14 年末現在 1 万キロ以上  
電気事業一覧。14 年末現在電気鉄道事業一覧。

\* 日本に於ける電気学術及其応用の沿革

1 電信事業 2 電話事業 3 電燈 4 電気鉄道 5 電気化学工業 6 電気機械及器具製造  
業 7 電気教育・協会・雑誌

\* 大正 15 年電気事業

電燈電力電気鉄道府県別一覧目次 東京・神奈川・ . . . . . 台湾

電燈電力電気鉄道イロハ別索引 イ之部・ロ之部・ . . . . . ス之部

電気化学工業目次 イ之部 磐城電気株式会社 . . . . . ス之部 諏訪電気株式会社

\* 官庁用電気一覧目次 鉄道省・陸軍省 . . . . . 文部省

\* 自家用電気一覧目次 イ、キ之部 盤城炭鋳株式会社 . . . . . ス之部 ズルツール・  
ブラザーズ

\* 官庁電気に関する職員（事務官・技師・教官）一覧

通信省・鉄道省 . . . . . 各府県

\* 電気に関する学校一覧 東京帝国大学工学部電気工学教授室 . . . 三井工業学校電気科

\* 電気に関する学会及協会一覧 工学舎 . . . . . 京都商業会

\* 全国無線電話機商組合加入店一覧目次 東京無線電話機商組合 . . . 大阪ラジオ組合

\* 電気図書一覧 電気理論及電気工学 . . . . . 電気講義録

\* 電気家小伝（写真入）目次 東京電燈株式会社社長 神戸舉一 . . . . .

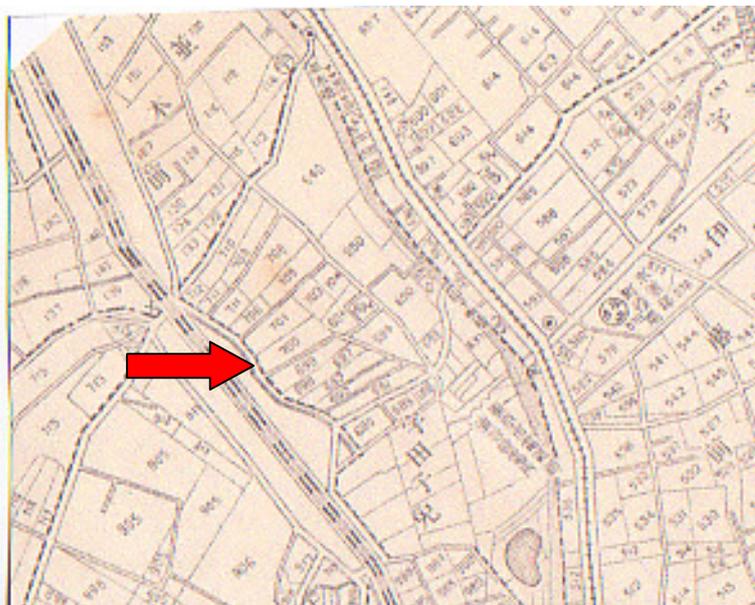
株式会社川北電気企業社社長 川北栄夫

\* 大正 15 年電気年鑑広告目次 (イ) 伊咲鉄工所 特 23 . . . . . (ス) 住友電線製造所  
(特 18)

以上、本文 702 ページ。他に広告約 80 ページ。

## 8 所在地 東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇

大正7年の広告の所在地は上の表記である。しかも、この年の会社概要では東京府豊多摩郡下渋谷700となっていて、これは渋谷町を落した形跡がある。次は何とか地図上でこの位置を確認したい。いろいろ大正年間の古い地図をインターネット上で探した。幸いぴったりのものが発見できた。



(地図1)  
大正7年。



(地図2)  
現在のもの。

(地図1)は『東京府豊多摩郡渋谷町平面図』大正7年8月発行。矢印の先に七〇〇の地番が見える。『計測器ひとすじに 横河電機の50年』によると『・・・そこは渋谷駅の近くで。恵比寿駅に向かう山手線の線路に沿った道の左側だった。』とあるだけである。かつて読んだことのある、ある本を思い出した。『ズイコー夜話 - オリンパスカメラ外史 -』桜井栄一著(注11)。ここには次のように語られている『この渋谷の工場というの

は当時の渋谷区田毎町、今の東1丁目で、国鉄の渋谷と恵比寿の間、東横線が国鉄を越える鉄橋と、青山から代官町に抜ける道が国鉄を越える猿楽橋に挟まれた所であって、そのころ三鷹に移った横河電機の渋谷工場を高千穂（注12）が買収したものである。』と記されている。これらの記事を参考にすると現在の渋谷清掃工場（東1丁目35-1）の一面であったことが判明した（地図2）。地図1、地図2で左上から右下に向かっている線路は山手線でその線路の延長線上の上部に渋谷駅。逆には恵比寿駅がある。両図の縮尺は同一にしたいところであったが多少の誤差が生じた。下の写真（写真2）が現在の姿である。



写真2 （2009年6月15日撮影）

## 9 正誤など

注1 現在の渋谷区東1丁目

注2 三三八 → 三三八一。

注3 横川一郎 → 横河一郎。

注4 社名の前に株式会社が入る。

注5 長・・・長距離電話。

注6 Y.E.Wのロゴマークが入る。

注7 六〇〇坪→七〇〇坪。前後の関係から九〇〇坪は誤植ではないか。

注8 九〇〇坪→七〇〇坪。ここも九〇〇坪は誤植ではないか。

注9 芝局から青山局。

注10 ロゴマークからドットが消えた。

注11 桜井栄一氏。当時オリンパス光学工業(株) 相談役。

注12 高千穂→現在のオリンパス(株)。

## 10 参考文献

- 1 『計測器ひとすじに 横河電機の50年』  
編纂・発行 株式会社 横河電機製作所 昭和40年9月1日印刷・発行。
- 2 『電気年鑑』 電気之友社 大正7年～15年発行。  
国立国会図書館 近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp>)。
- 3 『ズイコー夜話 –オリンパスカメラ外史–』 桜井栄一著 現代カメラ新書  
No.86 昭和58年3月31日発行 (株朝日ソノラマ。9ページ。
- 4 『東京府豊多摩郡渋谷町平面図』 大正7年8月発行。渋谷町役場。  
国際日本文化研究センター S3 地図、YG/7/GC67/To.000730663  
[http://tois.nitibun.ac.jp/chizu/santosi\\_1231.html](http://tois.nitibun.ac.jp/chizu/santosi_1231.html)
- 5 地図2 Google 地図